



近年、日本では、医療難民・介護難民の問題や地域間での医療格差の問題がクローズアップされる一方で、健康に対する自己責任が強調されるような政策展開がみられます。また、餓死や孤独死、自殺の増加、過労死にみられるような労働者の身体的及び精神的な健康問題、その他あらゆる社会的な要因により貧困問題が緊急の課題として取り上げられています。

本シンポジウムでは、健康権をめぐるグローバルな状況について、ポール・ハント氏（元国連健康権に関する特別報告者・エセックス大学ロースクール教授）からご報告を受け、貧困や医療アクセスの問題に直面

【日時】

**2009年1月10日(土)**  
**14:00～17:30(開場13:30)**

【会場】

**立命館大学衣笠キャンパス**  
**創思館1Fカンファレンスルーム**

会場までのアクセス：

[http://www.ritsumei.jp/accessmap/accessmap\\_kinugasa\\_j.html](http://www.ritsumei.jp/accessmap/accessmap_kinugasa_j.html)  
(駐車スペースがございません。公共交通機関をご利用ください。)

**※参加費無料／事前申込不要**  
**(直接会場へお越しください)**

【主催】

立命館大学人間科学研究所  
立命館大学グローバルCOEプログラム「生存学」創成拠点  
立命館大学生存学研究センター

【協力】

(特活)ヒューマンライツ・ナウ

【後援】

患者の権利法をつくる会、京都医療労働組合連合会、京都地方労働組合総評議会、京都府社会福祉協議会、京都府保険医協会、京都弁護士会、京都民主医療機関連合会、国民医療研究所、(財)アジア・太平洋人権情報センター、(社)京都保健会 京都民医連中央病院、全京都生活と健康を守る会、全国保険医団体連合会、全日本民主医療機関連合会(50音順)

国際シンポジウム  
「健康権の再検討」  
近年の国際的議論から日本の課題を探る

プログラム

(敬称略)

I 基調講演

「The Right to Health:  
Opportunities and Challenges」

講師：

**Paul Hunt**

(元国連健康権に関する特別報告者、  
エセックス大学ロースクール教授)

※ハント氏の講演は、日本語と英語による2ヶ国語同時通訳の実施を予定しております。

II 調査報告

「日本における健康権保障の現状」

報告者：

**棟居徳子**

(立命館大学人間科学研究所PD研究員)

III パネル・ディスカッション

「日本における健康権保障の課題」

司会：

**松田亮三**

(立命館大学産業社会学部教授)

**棟居徳子**

パネリスト：

**Paul Hunt**

**井上英夫**

(金沢大学大学院人間社会環境研究科教授)

**藤原精吾**

(弁護士、日本弁護士連合会元副会長)

**垣田さち子**

(医師、京都府保険医協会副理事長)

本シンポジウムは、立命館大学2008年度研究の国際化推進プログラム「研究成果の国際的発信強化」、科学研究費補助金若手スタートアップ「国際連合における社会権保障の現状と課題：健康権保障を中心に」(研究代表者：棟居徳子)、大和日英基金奨励助成(The Daiwa Anglo-Japanese Foundation Small Grants)、文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業オープン・リサーチ・センター整備事業「臨床人間科学の構築—対人援助のための人間環境研究」プロジェクトおよび日本生活協同組合連合会医療部会からの奨学寄附研究の研究成果として広く社会に発信するものです。

お問い合わせ先

■ 立命館大学人間科学研究所 ■

〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1 TEL:075-465-8358 FAX:075-465-8245

E-mail: [ningen@st.ritsumei.ac.jp](mailto:ningen@st.ritsumei.ac.jp) (担当:野村・荒堀) URL:<http://www.ritsumei.ac.jp/acd/re/k-rsc/hs/hs/index.html>

